

# 中学生と「働く」討論

神奈川県横須賀市が実施する地元の中学生を対象とした人材育成プログラム「マイタウンテ  
 ーチャー派遣事業」に、東京電力藤沢支社(伏見保則支社長)が参加している。横須賀市に  
 勤務地のある企業などが中学校へ社員を派遣。「働くこと」について、グループディスカッシ  
 ョンを通じて、将来の夢や職業観の育成につなげていくのが狙いだ。昨年末から、同支社の若  
 手社員7人が5つの中学校を訪問。協働の気持ちやコミュニケーション能力の重要性、夢を現  
 現するために、今から取り組むことなどについて、中学生たちと語り合った。

横須賀市では08年度か  
 ら「横須賀に働く大人は  
 すべて先生」をコンセプト  
 に、社会人と中学生と  
 の交流を行っている。東  
 電や日産など、地元にな  
 業所がある大手企業や警  
 察、消防、看護師などの  
 公務員のほか、飲食店や  
 花弁き店ダンス教師、  
 美容師といった多様な職  
 業人が参加。社会人側が  
 中学校に出向き、自身の  
 仕事の内容や働く意義、  
 なぜその仕事を選んだか  
 などについてグループで  
 語り合ったり、実際に仕  
 事を使う道具を使って、  
 どのような仕事を行うか  
 を披露する「社会人によ  
 る授業」を設けるなどの  
 取り組みを行っている。

## 若手社員を派遣

東電も活動発足当初か  
 ら、横須賀火力発電所の  
 社員が参加。福島第一原  
 子力発電所事故後は活動  
 を休止していたが、横須

## 東電藤沢支社、横須賀市事業に協力

賀市からの呼び掛けもあ  
 り、同市を受け持ちエリ  
 アとする藤沢支社が、12  
 年12月から5つの中学校  
 に「マイタウンティーチ  
 ヤー」として社員の派遣  
 を始めた。

「これまで藤沢支社か  
 ら派遣されたのは、配電  
 保守・設計、技術サービ  
 ス部門に所属する20代  
 の若手社員7人。日頃の業  
 務内容について説明した  
 ほか、生徒たちからの質  
 問に答えた。」



母校の横須賀市立坂本中でグループディス  
 カッションする久保田さん(左から3人目)

## 夢の実現 体験交え助言

基本的な質問に対し中学  
 生にもわかりやすく答え  
 るのが難しかった(お  
 客さまコミュニケーション  
 ショールーム・流矢夕子さ  
 ん)。同グループの齋藤  
 未恭さんも「停電時に広  
 報車でお知らせをする自  
 分の仕事などについても  
 話したが、その目的など  
 を伝えられたらどうかと  
 感じた。あらためてコミ  
 ュニケーションの力につ  
 いて考えさせられた」と  
 話す。

配電系の仕事について  
 も、業務内容への関心と  
 いうよりも仕事の場の雰  
 囲気、どうやって希望の  
 仕事に就くことができた  
 のか、または働く上での  
 心構えなどへの関心が高  
 かったという。

「温かさ」に感謝  
 「あいさつが大切とい  
 うのは、仕事はチームワ  
 ークで進むものであり、  
 協働にはコミュニケーション  
 が大切なんだという  
 ことを強調した」(横須  
 賀地域設備サービスグル  
 ープ・進雄一さん)。自  
 らの母校を訪ねた横須賀  
 制御所配電保守グループ  
 の久保田雄大さんも「東  
 電の仕事への理解をもら  
 おうというより、一人の  
 先輩、社会人として働く  
 ということについて、話  
 をした方が関心を持って  
 聞いてもらえた」と語る。

生徒たちからは、福島  
 第一原子力発電所事故の  
 問題を揶揄(やゆ)する  
 ような質問などはなかつ  
 たという。伏見支社長は  
 「多少覚悟を持って社員  
 を送り出したが、自然に  
 受け入れてもらった。横  
 須賀火力が東電のシンボ  
 ルでもあり、現在のよう  
 な状況でもひとつの企  
 業、一人の社会人として  
 の立場で接してもらえ  
 る」のと、今後も同事業  
 に積極的に協力していき  
 たいとしている。